

## INWES APNN 2017 in Yokohama 開催報告

7月14日、APNN (Asia Pacific Nation Network)会議が特定非営利活動法人日本女性技術者科学者ネットワーク主催で、横浜市の横浜シンポジアで開催されました。APNN は第1回が2011年オーストラリアのアデレードで開催されて以来、毎年アジアの国で開催され、今年は第8回目になります。

APNN は INWES (International Network of Women Engineers and Scientists)に属するアジアのサブネットワークであり、現在13か国(日本、韓国、台湾、ベトナム、マレーシア、ニュージーランド、オーストラリア、モンゴル、インド、パキスタン、ネパール、バングラデシュ、スリランカ)の女性技術者・科学者の団体がメンバーとなっています。今回は、13か国中、オーストラリア、パキスタンを除く11か国の代表と、海外と日本人の参加者を含め約70名以上が参加し活発な議論を行いました。(31名が海外からの参加者)。



会議は APNN 議長の菅原 (JNWES 理事長) の歓迎挨拶で始まり、次に INWES プレジデントの Dr Kong-Jong Lee がスピーチを行いました。引き続きゲストスピーカーとして、内閣府男女共同参画局の武川恵子局長が、日本の女性および、女性

科学者・技術者の現状および世界の中の位置づけ、また日本政府の女性に対する政策などを豊富なデータを示しながら、講演を行いました。アジアの女性参加者もとても興味をもったようでした。その中でも、日本での女性研究者の割合が15%と非常に少ないことにも驚いたようでした。その後は、順番に11か国の代表者が各国の女性技術者と科学者の現状、課題、彼女たちの団体の活動などを話し、活発な質疑応答が行われました。日本からは日本女性科学者の会の功刀由紀子会長が日本での活動について発表いたしました。

今後はお互いの活動を連携できないかなど、いろいろな可能性が感じられました。午後にはもう一人のゲストスピーカーとして、韓国の梨花女子大教授の Dr. Kong-Ju-Bock LEE が、毎年実施している、APNN 各国の女性たちに対するサーベイのサマリーの紹介を行いました。APNN、サーベイは、毎年テーマをきめて、ジェンダーバリアーや、グラスシーリングなど、2014 年以来、各国 100 名以上の女性技術者・科学者のアンケートを行っています。報告資料はいただいていたのですが、あらためて話を聞くのは初めてであり、興味深く聞きました。

各国の発表の合間には、数回のコーヒブレイクがあり、JNWES のメンバーによる日本独特のお菓子など趣向をこらした“おもてなし”に、海外からの参加者はとても喜んでいました。



APNN プログラムの最後に、AGM (Annual General Meeting) が開催され、次回 2018 年 APNN のベトナム、ハノイでの開催が決定され、2014 年-2017 年の 3 年間議場国であった JNWES から次回議長国である、台湾の Twist へ引き継ぎが行われました。



また、プログラム終了後は、議場前のラウンジにおいて懇親会が行われ楽しいひと時を過ごしました。APNN の海外からの参加者は、翌日の Global Women in Science and Technology (GWST) にも参加いただき、そのうち 10 数名は、議場でのパネル・ディスカッションのパネラーや、高校生の英語の質問に答えたりと大活躍していただきました。日本の女子高校生や大学生にとって、とても刺激になったと思います。ご協力いただきました、協賛企業、大学、研究所の方、また横浜市にあらためて感謝申し上げます。

特定非営利活動法人日本女性技術者科学者ネットワーク理事長  
菅原香代子

特定非営利活動法人日本女性技術者科学者ネットワーク理事長

菅原香代子